

事例 3

コーディネーター名	大岡 忠男	活動学校	益子町立七井小学校 益子町立七井中学校
コーディネーター歴	14年	経歴	元役場職員（益子町）

1 コーディネーターを始めるきっかけ

定年退職後、何か人の役に立ちたいと考えていたところ、役場職員であったことの強みで町内に知り合いが多いことなどから声をかけられたことがきっかけである。さらに芳賀教育事務所主催の学校支援ボランティアコーディネーター養成研修を受講し、以後、益子町立七井小学校を中心に活動している。

2 コーディネート活動の概要

現在、七井小学校では6人のコーディネーターが活動しているが、自分はそのまとめ役として必要に応じてメンバーを招集し、ボランティアの確保状況の確認や活動の情報交換等を行っている。

活動内容は主に学校支援ボランティアの確保である。ミシン学習、昔遊び体験、農業体験等の学習支援ボランティアや校内の枯れ木の伐採、夏休み中の校庭の除草等の環境整備ボランティア等での実績を積んでいる。

また、七井小学校には平成12年から、学校の教育活動を支援したい地域住民が登録している「七井っ子ネット」という組織がある。ボランティアの確保等でスムーズに機能が発揮できるよう、現在組織の整備に取り組んでいる。平成29年2月に新たな組織が発足する予定である。



図書ボランティア研修会の様子

3 コーディネート活動がうまくいくためのポイント

① 学校からの支援

■ 教職員の理解

学校長をはじめ、教職員が地域連携活動に積極的である。学校だよりには学校支援ボランティア活動の紹介が掲載されている。これは学区内の全戸に回覧され、地域住民が活動について理解を深めることにもつながっている。

■ 地域連携教員との連携

地域連携教員(教務主任)が窓口であることがはっきりしているので連携しやすい。地域連携教員が、活動略案や内容を知らせる文書を作ってくれている。それに応じてボランティアの確保や活動の確認ができるので、助かっている。

② 工夫していること

■ 学校の負担を軽減する

- ・学校に頻繁に足を運ぶようにしているが、できるだけ負担がかからないよう、打合せ時間は5～10分くらいにしている。

・ボランティアが学校とやりとりする場合、学校に負担がかからないように、事前に電話を入れて都合を聞いてからやりとりするようにアドバイスしている。

■ ボランティアの確保

・ボランティアを依頼しても、当日に用事があって活動できないというケースもあるので、必要数の倍くらいの候補があつてよいと考えている。七井っ子ネットの整備がここにつながるとよいと考えている。

・地域の知り合いには、日頃から、学校でこういうことをしているのでやってみないかと声をかけて、関心をもってもらえるようにしている。

■ コーディネーターの確保

コーディネーターの候補者を見つけて声をかけている。人柄(信頼できる人)、学校との関わり(できればPTA役員経験者、子どもや孫がいる等)、地域に知人が多い等をポイントにしている。

■ その他

ボランティアにはボランティア保険への加入を勧め、安全を心がけて活動できるようにしている。

4 コーディネーターとしてのやりがい

・何よりも、ボランティアが入ったときに子どもたちが見せる普段とは違った表情を見るのがうれしくて、やりがいになっている。また、ボランティアからも学校の先生が教えられないものを教えているという満足感が得られている様子が見られてうれしい。

・町民から、学校だよりや広報を見たとき声をかけられることがあり、活動に関心をもってくれている様子で、励みになっている。

5 活動上の課題

■ 学校の負担を軽減していくこと

学校は忙しい。地域連携活動に関する文書の作成などで、コーディネーター側でもできるものがあるのではないかと検討している。

■ 中学校での活動

中学校にも積極的に入っていきたいが、今のところあまり関わっていない。コーディネーターの養成も含めて今後検討を要するところである。

6 その他

町の広報誌の生涯学習コーナー「まなびの広場」や町生涯学習課発行の「学校支援ボランティアだより」に七井小学校の活動が掲載されており、全戸に回覧されている。町を挙げて活動をPRしてくれていることがありがたい。学校の考え次第で、地域連携活動の取組は変わってしまうと思う。活動の活性化のためには、教育委員会や教育事務所のバックアップも必要と考えている。